

沖縄市DX推進課 データ利活用・EBPM取組プラン（仮）

アドバイザー：下山 紗代子さま

日時：令和6年12月2日～12月3日

場所：B2F 沖縄市DX推進課

担当：兼次、有銘

支援分野及び支援の方法

支援分野	⑤地方公共団体のDXに関すること
対象事業 (支援分野①又は②の場合)	
支援の方法	課題対応アドバイス事業

支援分野5 選択項目

具体の支援分野

※支援分野5 を選択した場合のみ選択（複数回答可）（啓発・研修事業、首長・管理者向けトップセミナーを除く）

- | | | |
|---|---|---|
| ☐ DXの機運醸成 | ☐ 情報システムの標準化・共通化 | ☐ マイナンバーカードの利活用の推進 |
| ☐ 行政手続のオンライン化 | ☒ データ利活用・EBPM | ☐ BPR・業務改革 |
| ☐ 自治体職員のデジタル人材への育成 | ☐ 外部デジタル人材の確保 | ☐ セキュリティ対策 |
| ☐ その他 | | |

推進体制

9

■ 事業推進体制

※申請団体のみならず、サービス提供事業者を含め、事業推進体制に参画する（予定を含む）各主体及び、申請事業を実施する上で協力・連携が不可欠である地域のステークホルダー全てについて体制図に記載するとともに、下欄に各主体の役割を具体的に記載すること。



名称	役割
沖縄市	・事業計画の立案 ・報告書作成をはじめとする事業全般の管理・統括業務内諸済
委託業者（入札）	・BIツール導入に伴う環境構築 ・ライセンス調達 ・操作研修、QA対応
地域情報化アドバイザー	・BIツールを用いたデータ利活用の具体的事例の紹介や普及促進のための手法などの助言や提案

名称	役割

デジ田交付申請に沿って、外部の有識者の知見や評価を頂きたい

目的

「BIツールを用いたデータ利活用の具体的事例の紹介や普及促進のための手法などの助言や提案」



- ① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導
- ② 現時点で、本市担当が取り組みたいと想定している事項への評価・指導
- ③ 本市担当へ、推奨する取り組み事項

▶特に「第2期 沖縄市DX推進計画」に盛り込んだ方がいい事項

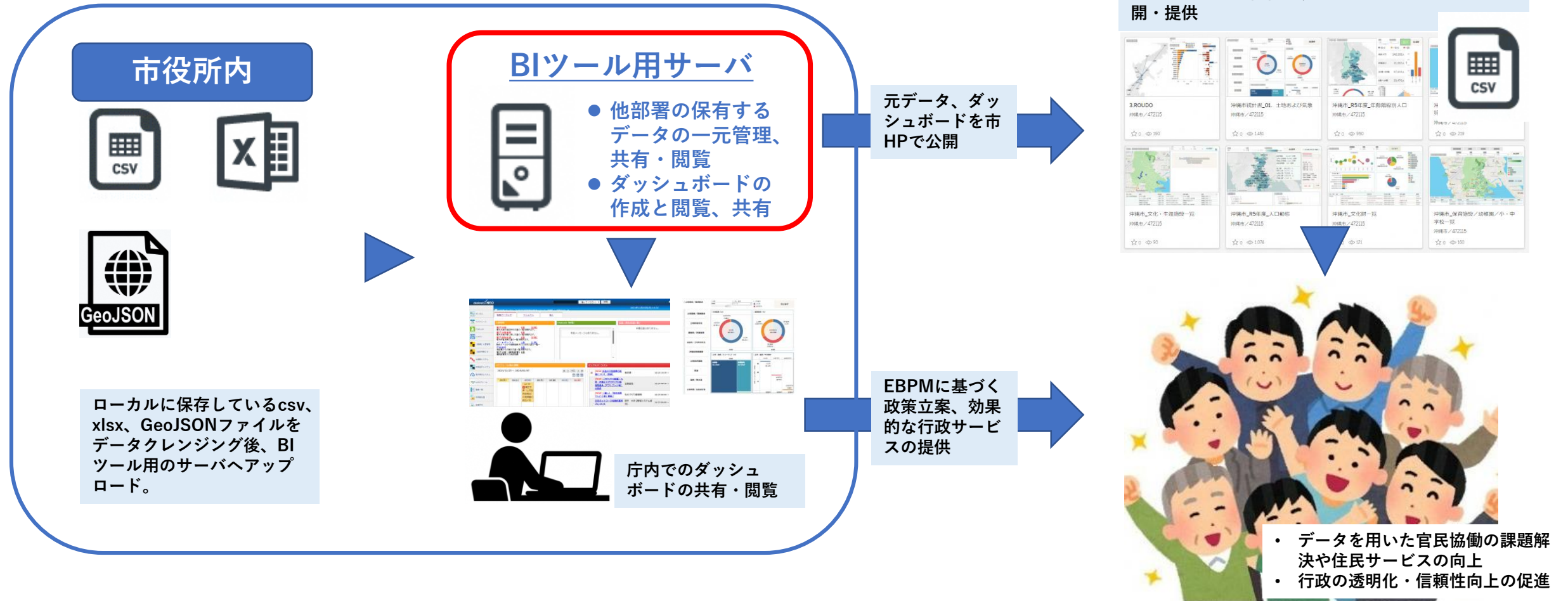
5-1 実施施策スケジュール[基本方針]

基本方針1		主な取組	2022	2023	2024	2025	2026
個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現	施策2 データ利活用によるまちづくりを推進する	オープンデータの推進	オープンデータの追加・公開				
			オープンデータの利活用促進				
			5 Star Open Data公開レベル3以上の割合 【現状値】0% 【目標値】100%				
		シビックテックの促進	シビックテックの周知				
			シビックテックイベントの開催数 【現状値】0回 【目標値】3回/年				
		データ分析によるまちづくりの推進	ダッシュボードサイトの調査・構築 → ダッシュボードサイトの公開				
			第5次沖縄市総合計画の各都市像におけるダッシュボード構築数 【現状値】0件 【目標値】1件/都市像				

指標基準日|現状値2021年4月1日、目標値2027年4月1日

デジ田交付申請時の取組概要

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導



デジ田交付申請時のKPI アウトプット指標

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

KPI①	本市HPに公開したダッシュボード公開数	種別	アウトプット	単位	件／年
KPIの概要、測定方法	ダッシュボードの公開件数。 市CMSから集計し、2024年4月より公開した新規ダッシュボード作成数を集計する。				
事業成果等の計測に適する理由	BIツール用サーバ構築後、各課が保有するデータをサーバ内で管理・集約し、そこからダッシュボード作成・公開へと繋げるサイクルを整備することが、本事業の成果として妥当であるとする。 根拠 ：デジタル実装初年度に購入するライセンス数が10個。初年度はライセンス配布部署の内、半分の部署にダッシュボードの公開に取り組んでもらい、3年でライセンス配布部署全てで達成する。				
2024年度末		2025年度末		2026年度末	
5		7		10	

KPI②	ダッシュボード作成ができる職員数	種別	アウトプット	単位	人／年
KPIの概要、測定方法	ダッシュボードを内製できる職員の人数。 ダッシュボード公開時に、どの職員が作成したかを確認して計測する。				
事業成果等の計測に適する理由	住民が意見を出しやすい環境を整備するため、市民が現状を把握できるようなダッシュボードを内製できる職員が必要と判断しており、本事業の成果として妥当であるとする。 根拠 ：デジタル実装初年度に購入するライセンス数が10個。初年度はライセンス配布部署の内、半数の部署にダッシュボードを作成、市HPで公開する取組みをスタートさせ、3年でライセンス配布部署全てで達成する。				
2024年度末		2025年度末		2026年度末	
5		7		10	

KPI③	本市HPで公開したダッシュボードの閲覧数	種別	アウトプット	単位	件／年
KPIの概要、測定方法	ダッシュボードの閲覧件数 2024年4月より公開した新規ダッシュボードの閲覧数を集計する。				
事業成果等の計測に適する理由	可視化されたダッシュボードが実際に閲覧されることが、課題発見や住民・民間団体から要望や提言を受けるための契機になると判断しており、本事業の成果として妥当であるとする。 根拠 ：本市が公開する「沖縄市オープンデータ」がR5年6月からR5年12月の約7ヵ月間で、 946（月120前後） の閲覧ビューであった。ダッシュボードページも同様の推移を辿ると見込み、年100ずつ閲覧数を増加させることを目標とする。				
2024年度末		2025年度末		2026年度末	
1ダッシュボードにつき閲覧数 100回		1ダッシュボードにつき閲覧数 200回		1ダッシュボードにつき閲覧数 300回	

デジ田交付申請時のKPI アウトカム指標

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

KPI①	オープンデータ／ダッシュボードを用いた課題解決の提案数	種別	アウトカム	単位	個／年
KPIの概要、測定方法	市が公開したダッシュボードやオープンデータを活用し、住民が市へ課題解決の提案を行った数。 測定方法は、アイデアソン等、市が主催するイベントで、参加者から提案のあった数を期間ごとに集計する。				
事業成果等の計測に適する理由	市の目指す将来像は、データに基づく客観的な合意形成にある。このKPIが市民のデータ活用と行政参画が行えているかを測れる指標であるため、妥当であると考え。 根拠 ：令和5年度に市が主催したアイデアソンで、参加者をグループ分けした際に出来上がったグループが4～5つであった。今年度のグループ数を下限とし、各グループから課題解決の提案ができるようにし、最終年度で提案数が 2倍増 の提案数が頂けることを目標に、KPIを設定した。				
2024年度末		2025年度末		2026年度末	
5		7		10	

KPI②	オープンデータ／ダッシュボード提供に対する住民満足度アンケート	種別	アウトカム	単位	%
KPIの概要、測定方法	システム利用者アンケートを実施、設問の回答から満足度を測定(5段階評価)する。 その内、「5. 満足」と「4. やや満足」と回答した割合の集計を行う。				
事業成果等の計測に適する理由	システム利用者満足度を測ることによって、利用者の利用に困っている点などを洗い出し、市が保有している行政データ公開の更なる促進に繋がると考える。				
2024年度末		2025年度末		2026年度末	
30%		40%		50%	

令和6年12月2日時点 実践事項

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

オープンデータ取組

1

元データの収集



原課

2

ODの作成



委託

3

庁内DB・HP公開



DX

4

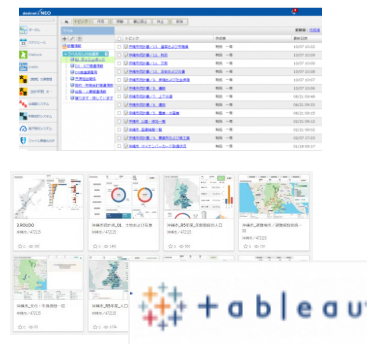
DBの内製



DX

5

庁内GW・HP公開



DX

6

アイデアソン実施



委託

DX

7

アイデアの掲載



DX

9

ダッシュボード取組

オープンデータ取組 ①元データの収集

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

概要

沖縄市HPで新規公開するオープンデータの**元データ提供依頼**を全庁に呼びかけています。

アナウンスは、事前に民間団体などへニーズ調査を行い、市に公開してほしいデータを把握し、そのデータを保有していると思われる部署まで特定した上で、行っています。

実施主体

元データの保有部署

時期・頻度

年1回（毎年12月～翌1月迄）

取組戦略

- ・ 依頼先以外の部署も取組みを知ってもらえるよう庁内グループウェア「**インフォメーション**」機能を活用。
- ・ 元データの提供が負担にならないよう、全庁共有のフォルダと**Logoフォーム**を活用。
- ・ 元データ提出について、原課から質問や疑義を受ける際は、委託業者の同伴のもと、ヒアリングを実施。

令和6年12月2日時点 実践事項



実績

- ・ 令和4年度 **19データ**
- ・ 令和5年度 **25データ**
- ・ 令和6年度 **20データ（予定）**

目標

- ・ 元データ保有部署が**自主的**に元データを提供する。
- ・ DX推進課の依頼時期は**年1回**とせず、随時行う。

オープンデータ取組

②オープンデータの作成

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

概要

沖縄市HPで新規公開するオープンデータの**作成**を行います。オープンデータは自治体標準ODS、データ・モデル型、GIFに準拠して作成を行っています。

あわせて、既に作成を終えた**オープンデータの更新**を元データ保有の部署へ依頼し、オープンデータの鮮度を保っています。

実施主体

- ・作成 **DX推進課**（委託先で作成）
- ・更新 **元データ保有の部署**

時期・頻度

年1回（毎年翌1月～翌2月迄）

取組戦略

- ・オープンデータ作成業務は**委託**。
- ・委託業者を**ビジネスチャットに招待**し、作成の進捗確認やデータに関する質問を適宜行えるようにした。

令和6年12月2日時点 実践事項



実績

- ・令和4年度 **19データ**
- ・令和5年度 **25データ**
- ・令和6年度 **20データ（予定）**

目標

- ・DX推進計画の期間内で**100**のオープンデータ作成する。
- ・データ定義項目書に沿った**オープンデータ作成をDX推進課**でも行う。

オープンデータ取組 ③庁内データベース・HP公開

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

概要

作成したオープンデータを市HPで公開しています。あわせて、**市独自のオープンデータカタログ上にも公開**しています。

また、**庁内のTableauサーバ内**にもオープンデータを公開し、Tableauライセンスユーザがダッシュボード作成に使用できるよう整えています。

実施主体

DX推進課（委託先で作成）

時期・頻度

- ・ **委託分 年1回**（毎年翌2月～翌3月迄）
- ・ **DX推進課作成分 随時**

取組戦略

- ・ 令和5年度より、基幹統計ダッシュボード内製を開始。**沖縄市統計書の元データ**をオープンデータとして公開。
- ・ より多くのオープンデータを公開しつつ、見やすいUIとなるようHPのレイアウトを**アーカイブ形式**に変更。
- ・ スクレイピングツールを活用し、「**BODIK ODCS**」への自動アップロードの仕組みを、現在構築中。

令和6年12月2日時点 実践事項



実績

- ・ 令和4年度 **19データ**
- ・ 令和5年度 **25データ**
- ・ 令和6年度 **20データ（予定）**
- ・ DX推進課作成分 **約230データ**

目標

- ・ 元データ保有部署が**自部署のオープンデータページを作成**し、**自主的**にオープンデータを公開する。

ダッシュボード取組

④ダッシュボードの内製

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

概要

KPI② ダッシュボード作成ができる職員数

2024年度末	2025年度末	2026年度末
5	7	10

オープンデータと基幹統計データを使い、**住民向けに公開するダッシュボードの内製業務**に取り組んでいます。

また、令和6年度からオンプレミスのBIツールサーバを導入。ライセンス配布ユーザーもダッシュボード内製の取組みを開始しています。

実施主体

DX推進課、ライセンス配布ユーザー

時期・頻度

随時

取組戦略

- DX推進課と委託業者へ随時QA対応が行えるよう**ビジネスチャット**内にライセンス配布ユーザを招待。
- 庁内において「**ダッシュボード よろづ作成（仮）**」をLogoフォームで受け、適宜、DX推進課で作成する。

令和6年12月2日時点 実践事項



実績

- 令和5年度 **33データ**（内、庁内のみ 3）
- 令和6年度 **3データ**（内、庁内のみ 0）

目標

- デジ田KPI**を達成する。
- 企業や民間団体などとやり取りし、**利用の需要が高い**ダッシュボードをピンポイントに作成する。

概要

KPI① 本市HPに公開したダッシュボード公開数

2024年度末	2025年度末	2026年度末
5	7	10

KPI③ 本市HPで公開したダッシュボードの閲覧数

2024年度末	2025年度末	2026年度末
1ダッシュボードにつき閲覧数 100回	1ダッシュボードにつき閲覧数 200回	1ダッシュボードにつき閲覧数 300回

DX推進課が作成したダッシュボードを庁内向け、市民向けに公開しています。

公開時は市HPの「**活動履歴**」ページで、公開したダッシュボードの案内を行っています。

実施主体

DX推進課

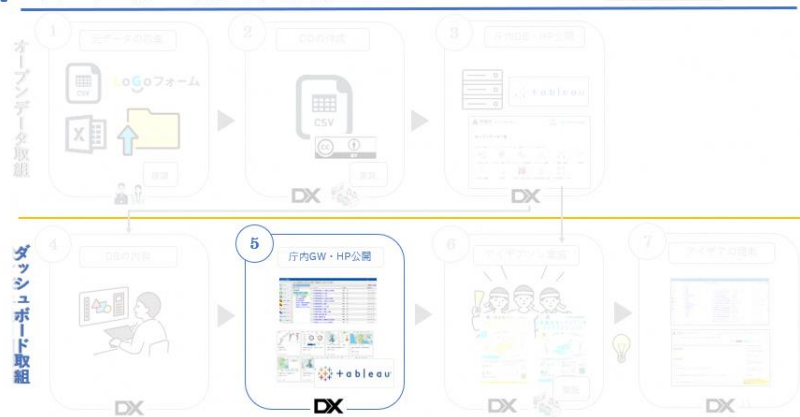
時期・頻度

随時

取組戦略

- DX推進課が作成したダッシュボードを庁内グループウェア「**電子会議室**」機能を活用。外部公開できないダッシュボードもこちらで公開。
- 外部公開のダッシュボードは「**Tableau Public**」を活用。
- 今後、ダッシュボードの公開時は、**SNSを活用**し、ダッシュボードの周知・案内に努める。

令和6年12月2日時点 実践事項



実績

- 令和5年度 **33データ**（内、庁内のみ **3**）
- 令和6年度 **3データ**（内、庁内のみ **0**）

目標

- デジ田KPI**を達成する。
- 企業や民間団体などとやり取りし、**利用の需要が高い**ダッシュボードをピンポイントに作成、公開する。

ダッシュボード取組 ⑥アイデアソン実施

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

概要

KPI① オープンデータ/ダッシュボードを用いた課題解決の提案数

2024年度末	2025年度末	2026年度末
5	7	10

DX推進課が公開したオープンデータ及びダッシュボードを使って、沖縄市の**地域課題解決**をテーマにワークショップを開催しています。

参加者がグループに分かれ、興味のある課題テーマを設定、沖縄市のオープンデータやそれらを可視化したダッシュボードをもとに、課題解決のテーマを発表します。

実施主体

DX推進課（委託先で企画運営を実施）

時期・頻度

年3回（一般向け 2回 学生向け 1回）

取組戦略

- 毎年、取り組む内容をステップごとに変化させている。
R5は**オープンデータ**のみ、R6は**ダッシュボード**を活用。
R7は**生成AI**の使用を検討。
- 参加者が今後も継続してダッシュボードやオープンデータに興味もってもらえるよう、**身近に感じられるデータ**を選択し、ダッシュボードを公開。

令和6年12月2日時点 実践事項



実績

- 令和5年度 ①**40名** ②**66名**
 - 令和6年度 ①**54名** ②**(2/1開催)**
- ①一般向け（延べ数） ②学生向け

目標

- ワークショップだけではなく、いつでも本市へ**課題提案ができるプラットフォームを構築**する。

ダッシュボード取組 ⑦アイデアソンの掲載

① 現時点で、本市担当が取り組んでいる事項への評価・指導

概要

アイデアソンで各グループが出した課題解決のアイデアを、市HP「**活動履歴**」ページで公開しています。

あわせて、庁内グループウェア「**インフォメーション**」にも掲載し、市民のアイデアを共有しています。

実施主体

DX推進課（委託先で企画運営を実施）

時期・頻度

年3回（一般向け 2回 学生向け 1回）

取組戦略

- 市HPで掲載したページは公開時に「**新着情報**」のチェックを入れ、市HPのTOPページで公開されるように設定。

令和6年12月2日時点 実践事項



実績

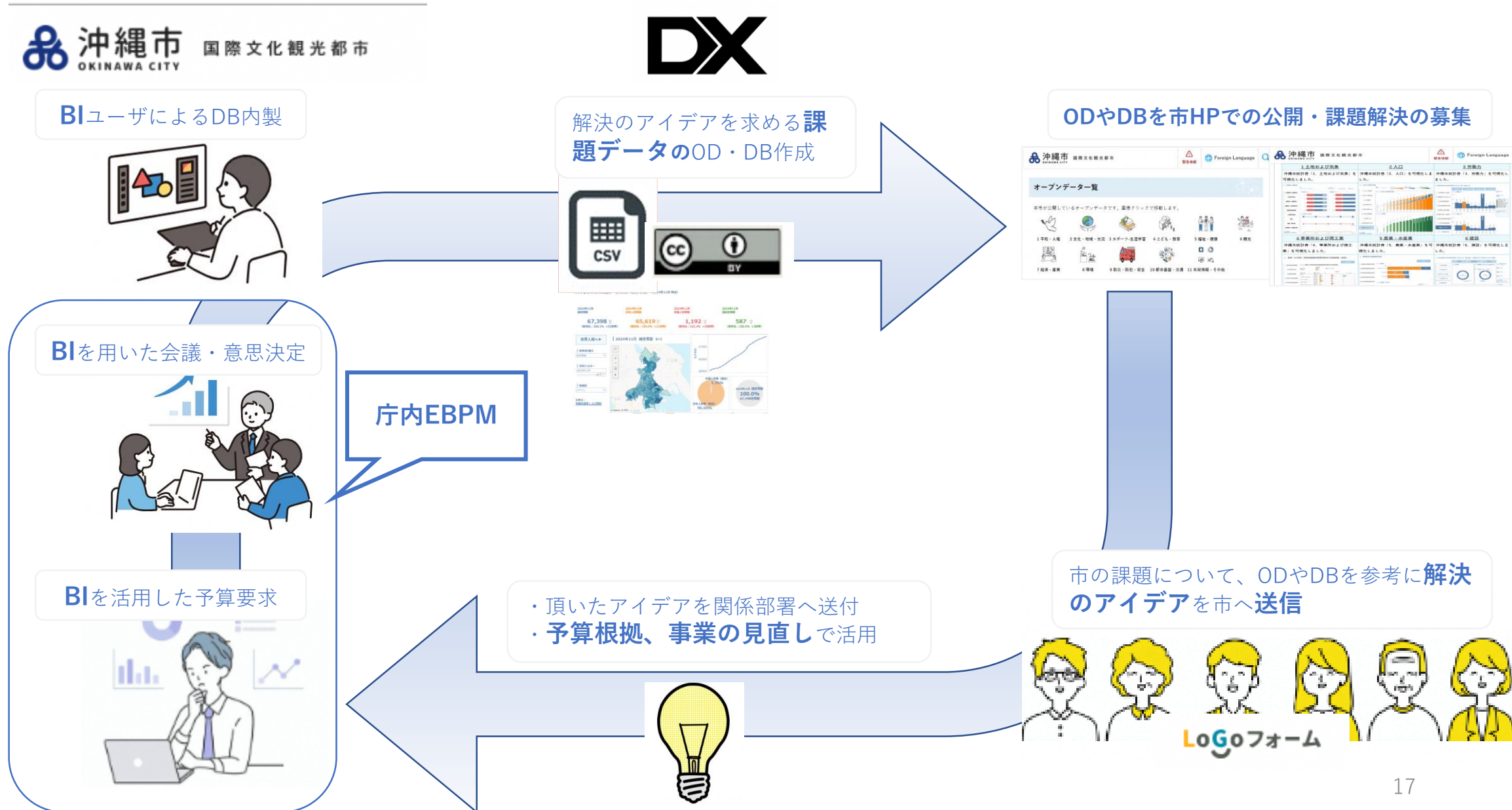
- 令和5年度 ①3 ②6
- 令和6年度 ①5 ②（2/1開催）
①一般向け（延べ数） ②学生向け

目標

- 提出されたアイデアを**事業の見直し、事業化の根拠**として活用できるよう使用するシートを向上させる。

次期5ヵ年で思い描くデータ利活用の将来像

② 現時点で、本市担当が取り組みたいと想定している事項への評価・指導



BIを活用した予算要求



取組

- **過去の予算データ、決算データ、予算執行率データ**をダッシュボード化と全庁公開。
- **新年度予算要求額**のダッシュボード化。

効果

- 財政部署では、過去の動向や執行率を根拠に予算査定が行える。
- 予算要求部署では、今年度の予算要求額を可視化することで、自部署が過去に比べて適正な予算要求額となっているか確認が行える。

DX側での取組事項

- ダッシュボードに使う元データの統一。
- ダッシュボードテンプレートの統一。
- Tableau PublicとTableau Readerの全庁展開。
- 財政部署へReaderの操作説明。
- アイデアソンで出た事業化要求、既存事業の見直しなどのアイデア一覧の共有。

BIユーザによるDB内製

BIを用いた会議・意思決定



取組

- ダッシュボードを活用した各課事業のモニタリング、動向分析、事業検討を行う**土壌の醸成**。データドリブン文化。

効果

- 優秀な職員や経験豊富な職員の肌感覚に拠っていた現状把握や分析の水準が、可視化されたダッシュボードの活用で、同じレベルで分析や把握を行える。
- データ把握の時間縮減。

DX側での取組事項

- Tableau PublicとTableau Readerの全庁展開。
- 見る側と作る側に分けたワークショップの開催。
- 作る側に対しては、適宜、操作QA対応。
- 見る側に対しては、エクセルやPowerPoint ▶ ダッシュボードに置き換えた際の、見方についてレクチャー。
- 各部署から依頼を受け、ダッシュボード作成を実施。（「ダッシュボードよろづ作成（仮）」の更なる展開）

次期5ヵ年で思い描くデータ利活用の将来像

② 現時点で、本市担当が取り組みたいと想定している事項への評価・指導

解決のアイデアを求める
課題データのOD・DB作成

ODやDBを市HPでの公
開・課題解決の募集



取組

- **委託事業者を介さず**に、庁内BIツールサーバ内にあるダッシュボードの公開やデータのオープンデータ化を実施。

効果

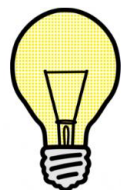
- 数字や文字の羅列ではなく、可視化されたダッシュボードを見ることで、市の現状をより分かりやすく伝えられる。
- 市の現状がより把握しやすくなったことで、住民が意見を出しやすくなる。
- 住民の意見をもとに事業化、事業見直しが行える。

DX側での取組事項

- 新規ページを作成するたびSNSでアナウンス。
- 作成するダッシュボードは、オープンデータと基幹統計データとあわせて、住民や企業の要望にピンポイントにあわせたダッシュボード作成・公開を行う。
- DX推進課から庁内部署へ住民に尋ねたい課題がないかを募り、課題に関するデータを収集。DX推進課にてダッシュボードを公開。
- その他、各部署の計画やパブリック・コメントなどと連携し、関係する元データの公開と、ダッシュボードの作成を実施。

市の課題について、ODやDBを参考に**解決のアイデア**を市へ**送信**

- ・頂いたアイデアを関係部署へ送付
- ・**予算根拠、事業の見直し**で活用



取組

- ・公開したダッシュボード、オープンデータをもとに市へ意見を送信し、全庁展開する。
- ・特に**市が事業化の検討を行いたいテーマ**について、市民から事業化のアイデアや意見を募る。

効果

- ・市の取り組みについて若い年代からご年配の方、また有識者や市役所を退職された方など、市民参画に意欲的な方々から幅広く知見をいただける。
- ・経験豊かな職員が退職されることによる事業化、事業見直しの水準低下の防止、維持。

DX側での取組事項

- ・意見を手軽に送信しやすいLogoフォームの更改。
- ・意見をいただいた際は、市HPで意見を一覧にし、月次報告を実施。
- ・庁内においては、庁内グループウェア「インフォメーション」に意見一覧を公開。
- ・事業化された際は、どのアイデアから事業化に至ったという一覧を公開。

オープンデータ関係の取組み

● 元データの収集

- ニーズ調査で得た**元データに対するニーズ、公開した場合の用途、使用目的**もセットで周知する。
 - ・ 単に元データの提供を依頼するだけでは、何故、取り組む必要があるのか？というそもそもの疑問を払拭できない。
- 著作権を心配し、オープンデータ化の判断がつかない場合は、**判断フロー図を用意**する。
- オープンデータそのものに抵抗感がある部署へは「**オープンデータ・バイ・デフォルト**」の原則を説明する。
 - ・ 税金を使って作られたデータは全て公共財として公開するべき
- 今後、DX推進課が主体となって元データを収集のであれば、自動化を検討する方が望ましい。データの提出量が多くなった際に、手作業では対応ができなくなる。

オープンデータ関係の取組み

● オープンデータの作成

- Excelデータの並びは**縦持ち**が推奨されている。
- 今後、自前でオープンデータを公開する場合は、縦持ちでの公開が望ましい。
- デジタル庁が公開しているデータ項目定義書に入っていない命名を行い場合は、直感的に内容を認識できる命名を行うこと。e-statで公開しているデータを参考に命名することもできる。
- デジタル庁が公開しているデータ項目定義書に沿って作成する際には、統一された命名規則やセル内データの表記方法がある。データ項目定義書に沿って自前で作成する際は、定義書に沿って作成するだけでなく、表記の方法も沿うよう全庁に周知する必要がある。
 - ・ 「沖縄市オープンデータ作成ガイドライン」をご覧ください、内容に不足がないことを確認。
- Excelデータのセル内結合、改行などによりBIツールで活用しづらいデータは、BIツール「**Tableau**」の**無料版機能**に搭載されている**インタープリターの使用**も検討できる。データクレンジングがある程度、行える。
- 今後、委託で事業を実施する際は成果物をオープンデータ化することを前提（オープンデータ・バイ・デザイン）に事業の委託を行う。

オープンデータ関係の取組み

● オープンデータの公開

- 各課がオープンデータ公開ページを作成し、各々で公開する運用は推奨されない。**1つのページ**にオープンデータが集約されている方が望ましい。
- ユーザ目線に立って考えた際、市HPからオープンデータを検索するのではなく、Google検索など市HP以外から検索を行うことが想定される。その際、データが集約された沖縄市オープンデータ公開ページに辿りつけた方が、ユーザにとっては使用しやすい。
- 今後、オープンデータは**カタログサイトの運用**をメインに進めたほうがよい。検索のしやすさ、属性情報の登録など便利な機能が搭載されている。
- カタログサイトで運用するのであれば、各課がログインアカウントを持ち、カタログサイトにオープンデータをアップロードするという運用が推奨される。

ダッシュボード関係の取組み

● ダッシュボードの内製

- 内製できる職員を増やすのであれば、挙手した意欲的な職員に留めるのではなく、全体的に範囲を広げる取組が必須。
- 広げるためには、**ダッシュボードに興味を持ってもらう**ことから始める。
 - ・ Excelとの違い
 - ・ ダッシュボードができることの説明
 - ・ ダッシュボードを使って、どのように業務効率化に繋がるかの説明
- ダッシュボード作成のワークショップを検討。また、戦略的に進めるのであればDX推進計画、デジタル人材育成に盛り込むことが必要。
- 職員に作ってもらうのであれば、まずはデータを分かりやすくみせる**提示型のダッシュボード**から進める。探索型のダッシュボードは複数データの組み合わせを要するため、高度となる。
- BIツールについては**無料版「Tableau」**の活用が検討できる。
- DX推進課でダッシュボード作成の依頼を受けるのであれば、デジタル庁が公開している**ダッシュボードの要件整理シート**の活用を推奨する。これにより、ユーザ目線に立ったダッシュボード設計を行うことができる。

ダッシュボード関係の取組み

● ダッシュボードの公開

- Tableau Publicの埋め込み運用を想定しているのであれば、Tableau Public側の閲覧を非表示とし、市HPからのみ閲覧できるようにすることで**内製途中のダッシュボード公開を控え**、作成完了のみのダッシュボードを公開する取組みが検討できる。
- 民間からニーズを広いダッシュボードを作成する際は、**ターゲット層を意識**して作成する必要が求められる。「**誰が**」「**どのような目的**」でダッシュボードを活用してもらいたいのか、という点を意識して、ダッシュボードを作成・公開していく取組みが大事となる。
 - ・ サービスデザイン思考のダッシュボード作成
- 今後、市民側のダッシュボードを「読み取る力」の育成も必要。
- 市民向けイベントでデータリテラシーを上げるイベントの誘致、活用も検討できる。
- ダッシュボードの**作成手法**を市HPで公開する取組みも検討できる。

ダッシュボード関係の取組み

● アイデアソン実施

- 課題解決をテーマとしてアイデアソンを取り組んでいく方向性は重要。今後も継続。
- 課題解決アイデアをLogoフォームで求める際は、設問数を**4つ程度**に抑える。
- **定性的な質問を定量的な質問**へと変換するための質問項目を設計すること。
- アイデアを求めるフォームはダッシュボード／オープンデータのフィードバックフォームと一緒に良い。
- 一方、**オープンデータとダッシュボードについては分けた**ほうがいい。オープンデータのフィードバック／アイデア提出、ダッシュボードのフィードバック／アイデア提出とフォームを2つにする。
 - ・ オープンデータのみ意見、ダッシュボードのみ意見と使用するユーザが違う場合もあるため。
- 課題提案を市から住民へとプッシュ型で求める場合、ファシリテーター役は必須。
- 事例だとシビックテックコミュニティやコードフォーージャパン、議員の方が入っているケースもある。

ダッシュボード関係の取組み

● アイデアの掲載

- 市民からいただいたアイデアを載せ、結果、**市がどのようなフィードバックを行った**という公表まであれば理想。
- 原課に回答の負担が生じるため、事前の理解が必要。全庁で取り組むとなれば場合によっては計画クラスになる可能性も。
- **アイデアをエクセル形式で構造化**し、その構造化したものをダッシュボードで公表することでアイデアの検索や、どのようなアイデアが出てきたかといったデータが一目で閲覧できる。
- また、市HPでアイデアを公開する際は画像やPDFを貼るだけでなく、そのアイデアの概略をまとめて、文書化したページ作成も推奨。ページ検索でアイデアを探しやすくなる効果が期待できる。
- アイデアについては、オープンデータ／BIツールの使用を参加者に覚えてもらい、アイデア出しから全て参加者に行ってもらおうワークショップもある。
 - ・ 結果、アイデア出しのスキルだけではなくツールのスキルアップにもつながる。
 - ・ DX推進担当は、参加者が作成したダッシュボードを庁内で公開し、興味を引き出す取組みが行える。
 - ・ 賞レース、コンテスト、表彰付にすると参加者向上が見込める。